

タイトル	私たちはどう生きるか(仮)	担当課	地域医療課
------	---------------	-----	-------

掲載意図	<p>いま医療・介護現場で導入され始めている「ACP」(≡Advance Care Planning、アドバンス・ケア・プランニング)。「大切にしていることは何か」「どう生きたいか」など、自分の価値観や生き方、これからの過ごし方のほか、最期が近づいてきたときの医療や介護のことなどを考え、家族や大切な人、医療・介護ケアチームと繰り返し話し合うプロセスです。厚生労働省は2018年、患者本人の生き方が尊重される医療を実現するため、“人生会議”と愛称をつけてACPを推進しています。</p> <p>背景には、病気やケガなどで命の危機に陥ったとき、約7割の人が医療やケアについて自分で決めたり、望みを伝えたりすることが難しくなるという事情があります。2009年にオーストラリアでの学会で発表された研究によれば、ACPを行うことで、「終末期医療に満足した」という回答が8割を超えたという研究があります。</p> <p>パンフレットやマンガ、記録シート、映像などでACPの普及啓発を進める自治体もあります。本市では広報紙の特集で、ACPを実践した市民などへ取材し、終末期医療を話し合うことがなぜ大切なのか。話し合ったことで、どんな効果があったのかなどを「ストーリー」として伝えることで、ACPに関するより具体的で実践的な情報を市民に伝えたいと考えています。</p>
------	---

頁	テーマ	取材先など	詳細
1	ACPって?	■患者&家族&医療・介護ケアチーム (話し合っている様子やノートやメモ書きなどの写真)	<p>●患者&amp;家族&amp;医療・介護ケアチームの取組やインタビュー掲載 (以下、こんなことを話してほしいという想定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話すきっかけがなかった、デリケートなテーマで話し合いが難しかった</li> <li>・医療&amp;介護ケアチームなど第三者が入ることで話し合えた、理解が深まった</li> <li>・結論は変わってもいい。それよりも話し合う「プロセス」に意味がある</li> </ul> <p>⇒ワーキンググループまたは、在宅部会員が関わった在宅看取りケース:1例</p>
2			<p>●コラム【ACPとは?】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ACPの定義や考え方の説明</li> <li>・なぜACPが大切なのか (約7割の人が医療やケアについて自分で決められたり伝えられない、ACPを行うことで終末期医療に満足した)</li> </ul>
3	ACPってこんなに大事	■各専門家の立場から	<p>●訪問診療の医師の立場から</p> <p>●病院の立場から</p> <p>●ケアマネジャーの立場から</p> <p>●特別養護老人ホームの立場から など</p> <p>⇒ワーキンググループまたは、在宅部会員からACP実践に関するインタビュー:2~4例</p>
4	ACPの理解を深めよう	■こんなときどうすればいい? ■ちょっと待って、誤解してない?	<p>●こんなときどうすればいい?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の父との話し合いが難しい</li> <li>・治療方針のすり合わせが難しい など</li> </ul> <p>●ちょっと待って、誤解してない?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療や介護の希望は一度決められたら変えられない?</li> <li>・いつから考え始めればいいのか? など</li> </ul>
5	ACPってどうやるの	■市の施策を3つ紹介	<p>●エンディングノート</p> <p>●ボードゲーム ⇒ボードゲーム制作者インタビュー(オンライン) ・作成意図や診療所での在宅医としての経験 など</p>
6			●市民フォーラム

【特集記事作成スケジュール(予定)】

- ・11月中 :3~4ページ 専門職インタビュー
- ・11月から12月: ボードゲーム制作者 インタビュー
- ・12月中旬まで:(患者)家族を交えてのインタビュー
- ・1月15日頃 :広報記事完成(校了)